

若林水車場跡

昔逢妻男川の水を、灌漑以外にも有効利用していました。中でも宮前橋の上流から引いた水は、六反橋付近の水車を回したり、愛三製糸の工業用水や吉原の鶴喰方面へも使われました。六反橋の水車は、区が管理をし村民らは米を搗く動力源として日常使っていました。

宮間山不動堂

若林を一望に眺められる高台に宮間山不動堂があります。本尊は厄除不動明王で約 300 年前に作られたと言われています。高さ約 80cm の木彫立像と右に制吒迦童子、左に矜迦羅童子、これら不動三尊は信仰も厚く祈願に訪れる人も多いそうです。

若林阿弥陀堂

起源は鎌倉時代とも江戸時代初期とも言われています。石像座像の阿弥陀様が祀られ、地区の守り仏として日常住民の信仰を受け続けています。老朽化した御堂は、平成 19 年に再建され子持地蔵と一緒に祀られています。若林では毎年 8 月 24 日に近い日曜日に地蔵盆祭りが、行われています。

若林古城址

平針街道沿いの要所若林にあったと言われますが、資料も少なく詳細は不詳。16 世紀三河地方は松平氏、尾張は織田氏が治めていました。松平家の家臣石川伝太郎に降伏した安城城の本多政平の子本多四郎左衛門親平は、1499(明応 8)年上野山(現在のノノ山)に、領主として若林城を築き、1504(文亀 4)年には出家し廃城となっています。

若林山円楽寺

開祖は本多四郎左衛門親平で、永正の頃(1515 年)この地に開基したのが始まりです。本願寺実如上人より方便法身尊像をいただき本尊としました。その後代不明の時期もありましたが、寛永 8(1631)年、上宮寺より順慶法師が入寺し円楽寺の再興に努め、中興の開基と呼ばれています。豊田市の名木に黒松と五葉松が、登録されています。

若林再発見!



江戸時代末期頃の古絵図

若林交流館 TEL:52-3858
自主 G「まっと知ろまい若林」

高美石仏苑

1936 年頃、この地方では神仏講が盛んで、近藤義兼氏は村の人たちと、もろもろの願いを込めて松林の中に四国八十八ヶ所に因んで石仏を寄進し 160 余体が山林に点在していたそうです。団地造成工事のために集められた石仏は、現在の所に祀るようになり毎年 4 月上旬に地元の人たちや奄美会の人たちで盛大に供養されるようになりました。

向島山浄照寺

開祖は存澄で、1296(永仁 4)年に天台宗のお寺を構えたことが始まりです。江戸時代に無住の時代がありましたが、渡邊家家臣が入寺し再興に努め、さらに渡邊徹鑒が本堂の再建に努め、平成 17 年には本堂・庫裡・書院が、国の「登録有形文化財建築物」として登録されました。今は 1 本ですが、黒松は豊田市の名木に登録されています。

若林八幡宮

若林小左衛門が一村を管理し、18 戸の産土神として八幡宮を 1054(天喜 2)年に勧請し奉り、社殿を逢妻川の辺の小高い丘に建てたのが始まりです。1446(文安 3)年、千葉三十郎(後、都築三十郎)が蓮如上人の請によって、石川政康らと共に武州都筑郡から移住し社殿を改築しました。菅田別尊が祀られており、雨乞神輿と大鳥居も特徴です。

愛三製糸

安城の「愛三製糸」は、昭和 5 年高岡に輸出用生糸の生産工場をつくりました。当時は、ほとんどが農家だったのに比べ近代的な大企業でした。しかし、太平洋戦争が始まり昭和 16 年には軍監督工場と指定され、落下傘用生糸の製造工場・軍用倉庫として利用されました。

若林駅

昔の「三河鉄道」は、刈谷—知立間でした。しかし、大正 9 年に知立—土橋間が難航の末営業を開始し、知立駅から若林駅までの運賃は 11 銭でした。開通当初の汽車(岡蒸気)は、若林、八ツ橋の上り勾配に差しかかる途中で止まってしまうこともあり、一旦坂を戻り勢いをつけたり、乗客を降ろして身軽くして登ったそうです。